

受理年月日	令和2年3月11日	付託年月日	令和2年3月12日	所管委員会	経済振興委員会
番号	2年請願第5号				
件名	人工島関連予算案を否決し、人工島事業の抜本的見直しを行うことについて				
請願者	東区奈多一丁目6-13 博多湾会議 共同代表 脇 義重 外 1人				
紹介議員	荒木[筆頭]、森(あ)				
分割付託	なし				
要旨	<p>市は、今なお博多湾の公有水面を埋め立てて人工島を造成中です。この人工島は計画段階から多くの問題点が指摘されてきました。能古島の面積に匹敵する約401ヘクタールの海水面が消滅しました。さらに幅430メートルの航路しゅんせつで海底土砂が次第に航路に押し寄せ、陸地では浜欠け現象が起これ、松などの植生が根こそぎ倒壊し、沿岸の県道59号線、海の中道線が部分陥没し、閉鎖されました。人工島が遮蔽物となって湾内の潮流を減速させ、博多湾は閉鎖海域となりました。富栄養化が進みアオサ発生の原因となりました。自然環境は激変し、水鳥の種数と生息数は激減しました。また、人工島の港湾施設は過剰投資になると指摘されてきました。市民生活に与えた影響も大きく、自然と共に暮らすまち福岡のイメージが損なわれていきました。</p> <p>自然を破壊しながら造成されている人工島は、事業自体も破綻しています。抜本的な見直しを行うことなく続行され、にっちもさっちもいかない泥沼にはまり込んでいます。造成した土地が売れないという致命的な現実、市政と財政を大きくゆがめてきました。人工島事業は造成地分譲に補助金を支給する販売方法が導入され、それでも販売が進捗しないと見るや、病院立地には不適で、小児医療サービスの市東部への偏在と、西部と南部の空洞化が招来されると懸念されていたにもかかわらず、市立こども病院を移転させました。また、市内3か所に案分され農産物の地産と市民生活にサービスを提供していた青果市場を統合移転し、さらに九州大学箱崎キャンパス跡地など他の適地を検討することなく人工島に市民体育館を移転するなど、市施設の人工島への移転が人工島事業破綻の穴埋めとして、人工島の地理的条件を無視し、市民に説明責任を尽くさないまま強行されています。市立市民体育館には、私有施設であるかのように企業名を冠した看板が掲げられています。</p> <p>人工島は毒グモ、セアカゴケグモの繁殖地になっていることが明らかになりました。人工島に市立こども病院を移転してよかったのでしょうか。この移転は多くの市民に犠牲を強いた市政の失敗ではないのでしょうか。私たちは、平和に安全に、安心して暮らしていけるまち福岡を求めています。破綻した人工島事業に、これ以上私たちの税金を使ってほしくありません。</p> <p>2020年度末で全会計の市債発行残高は2兆2,118億円余の見込みで、2兆円超えが続き、市民1人当たり138万円余となっています。一般会計における公債費が1,000億円程度と市民生活を圧迫する状況となっています。このように不健全な財政状態が続く中、必要と展望のない人工島に不要な歳出を重ね、次世代にこれ以上借金を残すことはできません。</p> <p>今、市がすべきことは、人工島事業の破綻救済に税金を使い続けることではなく、博多湾の豊かな自然と共にあって、人材が不足している福祉、医療、教育、文化に財政の重点を置き、誰もが住んでよかったと思える市民生活第一のまちづくりに専心することではないでしょうか。</p> <p>よって、以下の事項を請願します。</p> <p>1. 市長が市議会に提出した2020年度予算案のうち、153億円余の人工島関連予算案を否決し、人工島事業の抜本的見直しを行うこと。</p>				
審査	令和 年 月 日	結 果	委員会		
年月日	令和 年 月 日		令和 年 月 日		
	令和 年 月 日		本会議 令和 年 月 日		

2020年3月11日

福岡市議会議長

阿部真之助 様

博多湾会議

福岡市東区奈多一丁目6番13号

共同代表 脇 義重

外1名



## 2020年度予算案中、約153億万円余の人工島関連予算案を否決し、人工島事業

### 業の抜本的見直しを行うよう求める請願

#### 【請願項目】

福岡市長が市議会に提出した2020年度予算案のうち、約153億円の人工島関連予算案を否決し、人工島事業の抜本的見直しを行うこと。

#### 【請願理由】

福岡市は、今なお博多湾の公有水面を埋め立て、人工島を造成中です。この人工島は計画段階から多くの問題点が指摘されてきました。能古島の面積に匹敵する約401haの海水面が消滅しました。さらに幅400メートルの航路浚渫で海底土砂が次第に航路に押し寄せ、陸地では浜欠現象が起り、松などの植生が根こそぎ倒壊し、沿岸の県道「海の中道線」が部分陥没し、閉鎖されました。人工島が遮蔽物となって湾内の潮流を減速させ、博多湾は閉鎖海域となりました。富栄養化が進みアオサ発生の原因となりました。自然環境は激変し、水鳥の種数と生息数を激減させました。また、人工島の港湾施設は過剰投資になると指摘されてきました。市民生活に与えた影響も大きく、「自然とともに暮らす街、福岡」のイメージが損なわれていきました。

自然を破壊しながら造成されている人工島は、事業自体も破綻しています。抜本的な見直しを行うことなく続行され、二進も三進も行かない泥沼にはまり込んでいます。造成土地が売れないという致命的な現実、福岡市政と市財政を大きく歪めてきました。人工島事業は造成地分譲に補助金を支給する販売方法が導入され、それでも販売が進捗しないと見るや、病院立地には不適で小児医療サービスの福岡市東部への偏在と西部と南部の空洞化が招来されると懸念されていたにも拘わらず、市立こども病院を移転させました。また市内3箇所に分譲された農産物の地産と市民生活にサービスを提供していた青果市場を統合移転し、さらに九州大学箱崎キャンパス跡地など他の適地を検討することなく人工島に市民体育館を移転するなど、福岡市施設の人工島への移転が、人工島事業破綻の穴埋めとして、人工島の地理的条件を無視し、市民に説明責任を尽くさないまま、強行されています。福岡市立市民体育館には、私有施設であるかのように企業名を冠した看板がかがれています。

人工島は毒蜘蛛セアカゴケグモの繁殖地になっていることが明らかになりました。人工島に市立こども病院を移転してよかったのでしょうか。この移転は多くの市民に犠牲を強いた市政の失敗ではないのでしょうか。私たちは、平和に安全に、安心して暮らしたい街福岡を求めています。破綻した人工島事業に、これ以上私たちの税金を使ってほしくありません。

全会計の市債発行残高は2020年度末2兆2,118億円余の見込みと2兆円超えが続き、市民一人当たり138万円余となっています。一般会計における公債費が1000億円程度と市民生活を圧迫する状況となっています。このように不健全な財政状態が続く中、必要と展望のない人工島に不要な歳出を重ね、次世代にこれ以上借金を残すことはできません。

今、福岡市がすべきことは、人工島事業の破綻救済に税金を使い続けることではなく、博多湾の豊かな自然とともにあって、人材が不足している福祉、医療、教育、文化に財政の重点をおき、だれもが「住んでよかった」と思える市民生活第一の街づくりに専心することではないのでしょうか。

よって、2020年度予算案中、約153億円の人工島関連予算案を否決し、人工島事業の抜本的見直しを行うよう求め、請願します。